3　自然を生かした九州地方の農業

○シラス台地とその利用

九州南部：古い火山の噴火物が積もってできた（　　★★）が広がる

→シラスは水を通しやすく、農業には不向き

→第二次大戦後、ダムや農業用水の整備により農業が大きく変化

例）笠之原（かさのはら）（鹿児島）：さつまいもに加え、野菜や茶などの栽培が可能になる

○畜産が盛んな九州南部

九州南部：シラス台地で水が得られるようになり、（　　★）が盛んになる

※（　　）とは、乳用牛・肉用牛・鶏・豚などの家畜を育て、食料品や物資などを得る産業のこと

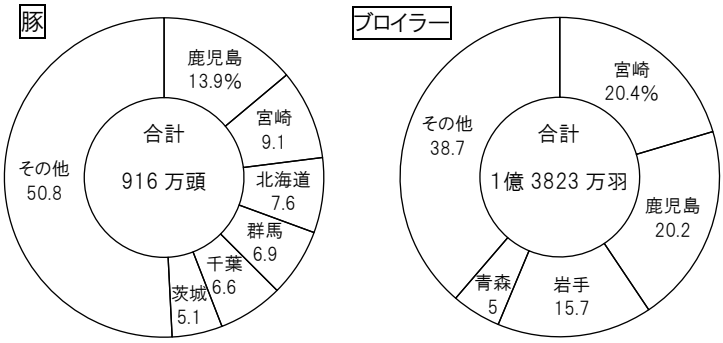
高度経済成長期：日本人の肉の消費量が増加

→国内でも有数の豚や鶏、肉牛の産地へと急成長

近年：安くて大量な飼料の使用、牧場の経営などが行われる

→豚や鶏の大規模な畜産、各地でブランド化が進む

＜豚やブロイラー（食用の鶏）の飼育が盛んな県（2019）＞



○温暖な気候の下で行われる農業

筑紫（つくし）平野の農業：冬でも温暖な気候を利用し、（　　★★★）が行われる

→大消費地の福岡市に近く、ビニールハウスを利用して生鮮野菜を栽培

※（　　）とは、同じ耕地で1年間に2種類の作物を栽培すること

九州南部の農業：冬でも温暖な気候を生かし、野菜の（　　★★★）が盛ん

例）宮崎平野のキュウリやピーマン、熊本平野のトマトなど